



人とくるまのテクノロジー展 2024 Automotive Engineering Exposition 2024

世界トップクラスの技術を誇る日本のクルマ業界。その最新テクノロジーをお披露目するイベント『人とくるまのテクノロジー展 2024 YOKOHAMA』が開催された。そこで披露されていたのはカーライフの未来を先取りしたアイテムばかり。ここでは、用品まわりの話題を中心に、CGM視点でネタをチョイス。用品・部品といったディテールの進化から、クルマ社会の未来が見えてくる!

5月22日(水)~5月24日(金)パシフィコ横浜にて開催された本イベントは公益社団法人自動車技術会が主催するもの。クルマ業界の590社が出展。3日間で延べ7万5972人が来場し、会場は熱気に包まれていた。

先取りレポート

先進テクノロジー見聞録

最新技術はここまで進んでいる! カーテクノロジーNOW ~未来予想図~

ライティング/センシング

市光工業

先進安全ヘッドランプ(HDライティング)

対向車を気にせず使えるハイビーム

数万ピクセルに分割されたLEDを個別にコントロールすることで、対向車の部分だけ照射しないなど細かい調整ができるHDライティング。これまでも可変ハイビームは存在したが、たいてい10ピクセル程度。対して、こちらは2万ピクセルというからどれだけ緻密な制御ができるかご想像いただけるはず。看板は反射すると見えにくいのでそこだけ減光することも可能とか。またロービームは路面に光による描写ができるのがポイント。ウインカーと連動して道路上に矢印を浮き上がらせたり、ナビゲーションと連動してレーンガイドをマーキングして、ドライバーや歩行者への注意を喚起す。安全性の向上に貢献する。



ZEEKR 007 LED デジタルパネル搭載 フロントライティング

1700個以上のLEDを搭載!

高さ15mmという超薄型のヘッドランプユニットに加え、1700個以上のLEDが仕込まれたデジタルパネルが一体化。光の融合により近未来的なフロントフェイスを実現している。グリル部にはさまざまなイルミネーションやメッセージを表示することも可能だ。

